

『都市計画①』 ※資料中の URL は、写真や画像の引用元を示します。

日本の都市開発の蓄積①

日本は各成長段階において、様々な課題に直面してきたが、適切な解決法で対応してきた。

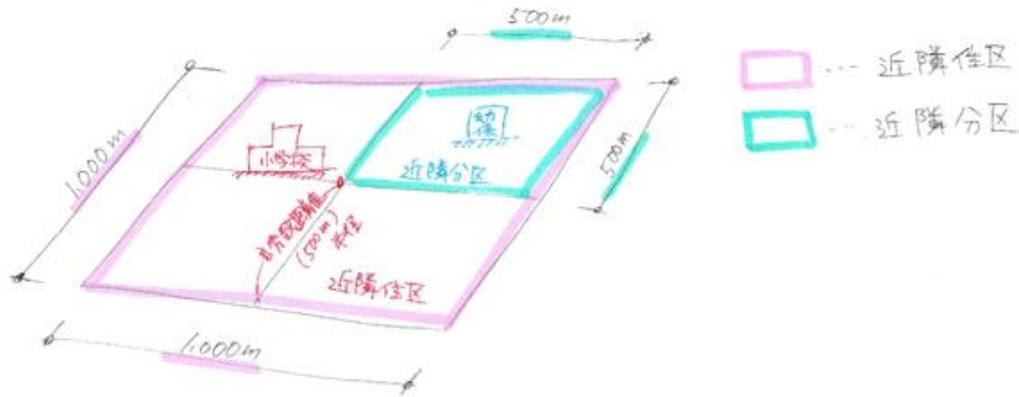
	1960～ 高度経済成長期	1980～ 安定成長期	2000～ 成熟期
課題	<ul style="list-style-type: none"> 都市部への人口集中による住宅の不足 急速な都市化によるインフラ(電気、水等)の不足 大気汚染、水質汚濁等の環境問題、公害の発生 	<ul style="list-style-type: none"> 生活水準の向上に伴う高い住環境ニーズへの対応 モータリゼーションの進行に伴う交通渋滞の深刻化 産業構造の変化による低未利用地の発生 環境意識の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ないまちづくりニーズへの対応 少子高齢化・人口減少に伴う中心市街地の活力低下 老朽化が進む住宅ストックの活用
解決法	<ol style="list-style-type: none"> 都市機能の分散 住宅の大量供給(新市街地の整備) 都市政策を実現するための法制度整備 	<ol style="list-style-type: none"> 住宅性能水準の向上 公共交通機関の充実 ブラウンフィールドの開発 資源循環の取組み 	<ol style="list-style-type: none"> スマートシティの実践 TOD(公共交通指向型開発)コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくり ストック再生 景観保護

※国交省 HP より引用

「近隣住区」

近隣住区は、学校、店舗、公園等の日常生活に必要なコミュニティ施設を備え、**小学校が1校成立**する程度の人口を単位としたものである。

C.A.ペリーが提唱した都市計画単位。



<誘致距離（行動半径）>

半径 **500m** 程度。

地区（中学、高校）>近隣住区（小学校）>近隣分区（幼稚園、保育所）

<近隣住区の代表例>

ハーロウ・ニュータウン（イギリス）、**千里ニュータウン（大阪）**

「都市公園」（ ）内は「誘致距離（行動半径）」 ※ $1 \text{ ha} = 100\text{m} \times 100\text{m} = 10,000 \text{ m}^2$

<住区基幹公園>

地区公園（**1000m**）>近隣公園（**500m**）>街区公園（**250m**）

標準規模：**4ha** > **2ha** > **0.25ha**

1ヘクタール： $100\text{m} \times 100\text{m} = 10,000 \text{ m}^2$

<都市基幹公園>（ ）内は標準規模

運動公園（**15~75ha**）>総合公園（**10~50ha**）

<広域公園>

都市公園の種類の一つ。

主として市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要に対応する、**面積 50ha 以上**の大規模な公園。

「都市部への車の流入を抑制する仕組み」

交通戦争という言葉が、1960年代から使われるようになった。

自動車の交通量が増えたことに対応して、小学校の裏に学童歩道橋がつけられた。

学童歩道橋は、歩車分離で合理的に通行させようという発想から始まっている。

人と自動車を立体的に分離することで、安全を確保する動きがここから始まった。

<歩車分離（ラドバーン）> クラレンス・スタインとヘンリー・ライト

→近隣住区の理論に基づいて計画されたもの。

- ・スーパーブロック：住区内の通過交通を排除
- ・クルドサック（袋小路）：自動車専用道路
- ・ペDESTリアンウェイ（デッキ）：歩行者専用道路



←ペDESTリアンウェイ（デッキ）

<https://i.pinimg.com/originals/2e/c3/38/2ec33833f0c0a88a5e45599aa41542e8.jpg> ja.wikipedia.org

<歩車共存（ボンエルフ）>

- ・シケイン：車路を蛇行させ、車のスピードを落とさせる手法。
- ・ハンブ：舗装面に部分的に凹凸をつけ、車のスピードを落とさせる手法。



「歩行者モールの分類」

- ・フルモール（歩行者専用）
- ・セミモール（幅広い歩行者専用と抑制された自動車通行路）
- ・トランジットモール（自動車を排除し、歩行者モール内にトラムやバス等を走行）

<トランジットモール>

歩行者用の空間であるモールの形態の一つであり、一般の自動車の進入を排除して、路面電車やバス等の公共交通機関に限って走行を認めたもの。

<屋根の有無による分類>

- ・オープン
- ・セミクロズド
- ・クロズドモール

「交通システム」

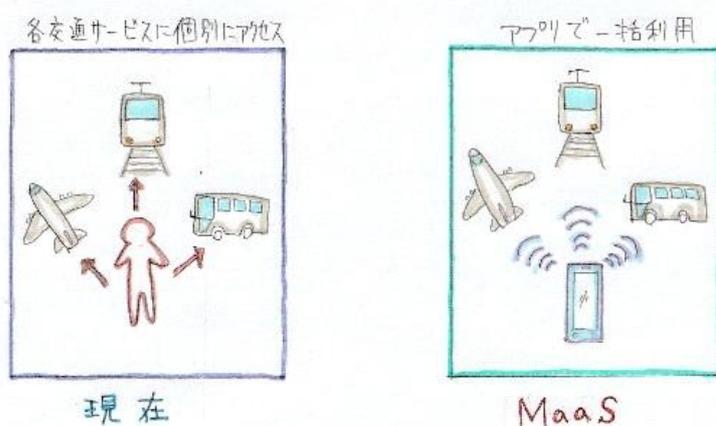
<ITS (Intelligent Transport Systems) >

最先端の情報通信技術を用いて、交通事故、渋滞などの道路交通の問題解決を目的に構築する交通システムのことである。

<MaaS (Mobility as a Service) >

いろいろな種類の交通サービスを、需要に応じて利用できる一つのサービスに統合すること。

例えば具体例の一つとして、一つのアプリサイトで全ての交通機関の経路を検索し、その予約や決済が一括できたり、データを連携させてホテルや観光施設、病院の予約や支払いなども済ませられる仕組み。



<タウンモビリティシステム>

中心市街地をバリアフリー化して車いすや電動スクーター等を貸し出し、歩行困難者の外出機会の拡大だけでなく、市街地の活性化を促す仕組みの一つ。

<JOIN (海外交通・都市開発事業支援機構) >

日本の知識や技術、経験を活かして海外でのインフラ事業を行う日本企業を支援する機構。

共同出資するだけでなく、運営面・技術面での協力や、相手国政府との交渉など、現場レベルでの支援も行う。

<BRT (Bus Rapid Transit) > 例：クリチバ（ブラジル）、横浜、神戸など

バス専用道路などを活用して高い定時性を確保し、**連節車両**を用いることや**停車時間短縮**の工夫を取り入れること等により、**高い輸送能力を確保**するバス交通システム。



写真：神戸

<LRT (Light Rail Transit) >

都市内の交通渋滞の緩和や環境問題の解消を図り、**低床式車両**の活用や軌道等の改良による乗降の容易性、定時制、速達性、快適性等の面で優れた特徴を有する**軌道系交通システム**。



写真：富山

<TOD (Transit Oriented Development) >

公共交通機関の利用を前提として、過度に自動車へ依存しない**持続可能な都市**を実現する方法の一つである。**LRT** もそのシステムのひとつ。

<パークアンドライドシステム> 都市の郊外

郊外に設置された**駐車場**を利用し、**都心部まで公共交通機関を利用**することによって、**中心市街地へ流入する車の交通量を抑制**する仕組み。

<フリンジパーキング> 都市の中（中心部の周辺）

都市中心部の周辺に駐車場を整備し、そこから**公共交通機関等**により都市中心部までアクセスするシステムであり、都市中心部への車の流入の抑制等を目的とするもの。

<キスアンドライド>

出発地から公共交通機関の乗降所（駅やバス停等）まで**家族等が自動車を送迎**する交通形態のこと。

「都市開発・まちづくり」

<スマートシティ>

都市が抱える諸課題に対して、**情報通信技術 (IoT)**等を活用しつつ、**マネジメント**（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体の最適化が図られる**持続可能な都市又は地区**をいう。

<IoT (Internet of Things) > 関連：スマートシティ

モノのインターネット

離れた場所にあるモノ（家電、機械、車等）を遠隔から監視、操作、制御したり、モノ同士で通信したりできる機能。

モノに無線通信機能を備えることで可能になる。

<エリアマネジメント> → <タウンマネジメント>ともいう。

地域における**良好な環境**や地域の**価値を維持・向上**させるための、**住民・事業主・地権者等による主体的な取組み**のこと。

例：香川県高松市

<コンパクトシティ (EU) >

<アーバンビレッジ (イギリス) >

<ニューアーバニズム (アメリカ) >

↑ 3つの言葉は同義語。

市街地の**無秩序な拡大を抑制**しながら、都市地域の**環境整備に重点**を置き、**環境的・経済的持続性を高める都市モデル**。

<スマートグリッド>

電力と情報通信のインフラを融合させた次世代のエネルギー供給システムで、**消費電力と発電量のバランスを双方向に管理**するシステムであり、**再生可能エネルギーの活用を推進**するもの。

<ストリートファニチャー>

街路や広場等の**屋外空間で使用**されるベンチ・柵・水飲み場等の**工作物等の総称**。

「座る、日陰をつくる、ディスプレイする、照らす」等、固有の機能と同時に、**それらが単体又は連携して、都市における行為や活動を提供する役割を担う**。

<タウンゾーニング>

都市計画で定められた容積率の引下げや、建築することができる用途を住宅等に限定する等、規制を現行に比べて厳しいものに変更し、無秩序な開発を制限するもの。

<二地域居住>

都市住民が、農山漁村等の地域にも同時に生活拠点をもつこと等をいう。
平日は都会で働き、週末は田舎暮らしをしたりすること。

<ワンセンター方式>

単調な近隣住区論によらず、中心地区に商業施設や利便施設を配置する方式。
センターからペDESTリアンデッキが分岐している点が特徴の高蔵寺ニュータウンが代表例。

<ブラウンフィールド>

土壌汚染の存在、あるいはその懸念から、本来、その土地が有する潜在的な価値よりも著しく低い利用あるいは未利用となった土地をいう。

<GIS (Geographic Information System) >

位置に関する情報をもつデータ（空間データ）を、総合的に管理・加工したうえで、視覚的に表示し、分析や判断を可能にする技術である。

<BID (Business Improvement District) >

地区内の不動産所有者や事業者等から徴収される負担金により、その地区のオープンスペース等の維持管理、治安の改善、マーケティング等を行うものである。

<CBD (Central Business District)：中心業務地区>

都市の中心部でオフィスが集中している地区のこと。

<DID (Densely Inhabited District)：人口集中地区>

日本の国勢調査において設定される統計上の地区。

市区町村の区域内で人口密度が **4,000 人/km² 以上**の基本単位区が互いに隣接して人口が **5,000 人以上**となる地区に設定される。

ただし、空港、港湾、工業地帯、公園など都市的傾向の強い基本単位区は、人口密度が低くても人口集中地区に含めることがある。

都市的地域と農村的地域の分けや、狭義の都市としての市街地の規模を示す指標として使用される。

「防犯計画」

<CPTED (Crime Prevention Through Environmental Design) 防犯環境設計>

心理学的効果を考えた設計によって、**犯罪抑止効果を高める計画手法**のこと。

夜になると薄暗くなる道に街灯をつけたり、マンションの入り口のところに防犯カメラをつけたり、道端で普段見かけない人を見かけたら積極的に挨拶をするようにしたり、玄関前に花壇をつくることを義務化し、そのお世話をすることで日中人がよく外に出るといったような「**悪いことがしにくい環境を整える**ことで犯罪を予防する」考え方のこと。

<まもりやすい空間 (ディフェンシブルスペース) > オスカーニューマン

犯罪の起こりやすい4つの条件「物理的障壁の不在」、「心理的障壁の不在」、「見通し、自然監視の悪さ」、「環境イメージの悪さ」のうち、**物理的・象徴的障壁と見通しのよさ**を持ち、住民たちがそこを「**自分たちの場所**」と感じているような環境を定義し、防犯性を高めるため、**パブリックからプライベートまでの段階的な空間構成**を採用した。

<割れ窓理論>

建築物の窓が割られたまま放置されると、**建築物を管理する者がいないと判断され、最終的には、その建築物全ての窓が割られてしまう**という比喻によって、**犯罪発生メカニズム**を説明したもの。

<ブルーイット・アイゴー (アメリカ) > **良くない事例**

1950年代に建設された**低所得者向けの集合住宅群**で、**住みやすさの軽視**など、設計上の問題等から、次第に**スラム化し犯罪発生率が増加**した事例。

1972年に解体された。

<アメリカ大都市の死と生> ジェイン・ジェイコブズ著

頻繁に使われている街路は安全となる傾向にあり、街路には常に住民、通行人、店員などの多数の目を置く必要があるとしている。

同時に、**都市の賑わいのためには多様性が必要**であるとし、**小さな街区・古い建物の保存**など4つの条件を示している。

<ゲートッド・コミュニティ>

住宅地をフェンスや壁等で囲い、出入口にゲートを設けて、住民以外の人や車両の出入りを制限した居住地区である。

施設内に入るためには、証明写真付きの居住者証明書によって住人として登録されていなければならない。

防犯性を向上させる街づくりの手法。

(米軍ハウスや、治安の悪い地域などで例がある)

<インナーシティ問題>

都市が拡大する過程で、都市の中心市街地、とくに都心の外周をなす地域（インナーシティ）の住宅環境が悪化し、夜間人口が減少して、都市空間としての機能が低下する現象。

過密の中の過疎とも呼ばれている。

人口の減少と、産業の衰退、地域の荒廃等が問題になっている。

「施設を計画・運営する際の官民連携等」

<指定管理者制度>

文化会館や保育所、公園等の公（地方公共団体）の施設の管理運営を、ノウハウを有する民間事業者等が代行することで、住民サービスの質の向上を図り、施設設置の目的を効果的に達成するための制度のこと。

<街なみ環境整備事業>

住環境の整備改善を必要とする区域において、地方公共団体及び街づくり協定等を結んだ住民が協力して、美しい景観の形成、良好な居住環境の整備を支援する事業のこと。

<TMO> タウン・マネジメント・オーガナイゼーション（機関）

商業・業務機能が集積した地区において、「中心市街地活性化基本計画」等をもとに活性化事業等を推進する民間主体の組織のこと。

<サウンディング型市場調査>

地方公共団体等の事業発案時や事業化の検討時に、住民との意見交換等を通し、事業に対する様々な意見や改善点を把握する調査のこと。

「都市空間についての著書」

<錯乱のニューヨーク>

レム・コールハースは、主としてマンハッタンの**超高層建築物**が作りだした「**過密の文化**」に着目し、「マンハッタニズム」と定義した。

<パタン・ランゲージ>

クリストファー・アレグザンダーは、過去の事例から導きだされた都市や建築を形づくるための基本的な原則を示した。

パタン・ランゲージとは、**人々が心地よいと感じる環境のパターン**を抽出し、それらを言語のように組合せていくことで、建物やコミュニティーを形成していく建築・都市計画理論。

例：川越一番街（埼玉県）

<アメリカ大都市の死と生>

ジェイン・ジェイコブズは、都市の街路や地区に**多様性を生み出す四つの条件**を示した。

<都市のイメージ>

ケヴィン・リンチは、**都市のわかりやすさ**（イメージのしやすさ）という観点から都市計画を考察した都市論を提唱した。

都市空間から抽出されるイメージを**パス・エッジ・ディストリクト・ノード**に分類している。

<ラスベガス>

ロバート・ヴェンチューリは、ラスベガスの都市景観の多様な空間要素を**記号論的な視点**から分析した。

「バツ問例」

- ・ プルーイト・アイゴー（アメリカ）は、1950 年代に建設された低所得者向けの集合住宅群であり、開放的な低層住宅とすることにより、犯罪発生率の大幅な低下を実現した事例である。
- ・ MaaS（Mobility as a Service）とは、自動車利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市や地域レベルの道路交通の混雑を緩和するための手法のことである。
- ・ 広域公園は、都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とし、都市規模に応じ1か所当たり面積10～40haを標準としている。
- ・ サウンディング型市場調査とは、地方公共団体等の事業完了後に、住民との意見交換等を通し、事業に対しての様々な意見や改善点を把握する調査のことである。
- ・ セミモールは、都市部や商業地などで歩行者空間を充実させたモールにおいて、一般車両の乗り入れを禁止し、路面電車やバスを通行させるものである。
- ・ 住宅地の計画において、ラドバーン方式は、心理的効果を考慮した設計によって、犯罪抑止効果を高める手法である。
- ・ パークアンドライドシステムは、中心市街地をバリアフリー化して車椅子や電動スクーター等を貸し出し、歩行困難者の外出の機会の拡大だけでなく、市街地の活性化を促す仕組みの一つである。
- ・ CBD（Central Business District）は、一般に、人口密度が4,000人/km²以上の国勢調査基本単位区等が互いに隣接し、それらの隣接した地域の人口が5,000人以上となる地域である。
- ・ ケヴィン・リンチは、「都市のイメージ（The Image of the City）」において、ラスベガスの都市景観の多様な空間要素を記号論的な視点から分析した。
- ・ 高蔵寺ニュータウン（愛知県）は、高度経済成長期に名古屋圏に流入し、増加した人口の受け皿として、「近隣住区」等の都市計画理論に基づき開発された我が国で最初のニュータウンである。

- ・ エリアマネジメントは、行政主導により地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための取組みのことである。
- ・ スマートグリッドは、インターネット等の通信回線を活用し、複数の建築物のエネルギー設備を一元的に管理・制御することによって地区単位で行われる、エネルギーの集中管理システムである。